

第3学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「読んで考えたことをつたえ合おう」 教材名「ありの行列」

2 単元の目標

指示する語句と接続する語句の働きを、調べ方と結果を説明する文の関係から理解できる。調べ方と結果を関係付けて文章を読み、納得したことについて考えをもち、友達と感じ方の違いを伝え合える。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①指示する語句と接続する語句の働きを、調べ方と結果を説明する文の関係から理解している。（〔知識及び技能〕(1)力）	①「読むこと」において、調べ方と結果を関係付けて文章を読み、納得したことについて考えをもち、友達と感じ方の違いを伝え合っている。（C(1)オ・C(1)力）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

問い、調べた方法、確かめたことの関係を読み、ありの行列についての説明に納得した理由を考える。接続する語句や指示する語句を、段落の関係を確かめるために使う。学習指導要領のC(1)オ・C(1)力を中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)力を、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

「何を確かめたかったか」「どう調べたか」「何が確かめたか」を対応させる。指示語を実際の言葉に置き換えて読み、意味がつながるかを確かめる。実際の観察は本文の読みを終えてからの発展とする。おおむね満足できる状況は、調べ方と結果を関係付けて文章を読み、納得したことについて考えをもち、友達と感じ方の違いを伝え合っているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全7時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を読み、ありの行列についての問いと初めの感想を記録する。	学習状況を見て支援する。
第2次	2	○段落ごとに書かれていることを短く表し、問いと説明のまとまりを捉える。	知①（語句や内容の整理）
	3	○調べた方法と結果を対応させ、指示語や接続語がつなぐ内容を確認める。	学習状況を見て支援する。
	4 （本 時）	○調べ方と結果の関係を基に、納得した説明と理由を考える。	思①（発言・学習記録）
	5	○自分の考えを納得カードに書き、本文のどこを読んだかを確認める。	学習状況を見て支援する。
	6	○カードを読み合い、同じ説明からも感じ方が違うことに気付く。	学習状況を見て支援する。
第3次	7	○初めの感想と比べ、関係を読んで確かめたことをまとめる。	態①（学習前後の記録・振り返り）

6 本時の指導 (4/7)

(1) 本時の目標

調べ方と結果を関係付けて文章を読み、納得したことについて考えをもち、友達と感じ方の違いを伝え合える。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「調べた方法と確かめたことの関係を読むと、どの説明に納得しましたか」 【めあて】問い、調べた方法、確かめたことの関係を読み、ありの行列についての説明に納得した理由を考える。 〈予想される児童の反応〉 ・調べたことを順に読むと、なぜそう考えたかが分かる。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「調べた方法と確かめたことの関係を読むと、どの説明に納得しましたか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・調べたことを順に読むと、なぜそう考えたかが分かる。 ・この指示語が前の調べ方を示している。 ・結論と確かめ方の両方におもしろさがある。	「何を確かめたかったか」「どう調べたか」「何が確かめたか」を対応させる。指示語を実際の言葉に置き換えて読み、意味がつながるかを確かめる。実際の観察は本文の読みを終えてからの発展とする。 想定する難しさ：実験や観察の方法と結果を入れ替える。知っていた昆虫の知識だけで感想を話す。接続語の名前を覚えることが目的になる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 調べ方と結果を関係付けて文章を読み、納得したことについて考えをもち、友達と感じ方の違いを伝え合っている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・結論と確かめ方の両方におもしろさがある。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「調べた方法と確かめたことの関係を読むと、どの説明に納得しましたか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

